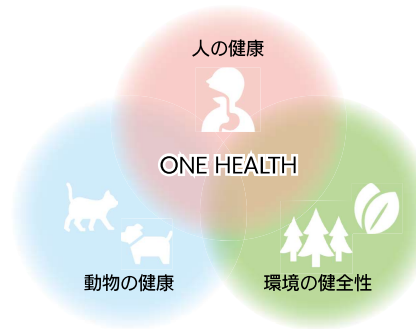


ワンヘルスのまち

地球上に暮らすすべての生き物の健康を守り、
健全な地球を次の世代に残すため、
人と動物と自然環境の健康を一体的に守る「ワンヘルス」の取り組みを推進しています。



みやま市では、これまで実践してきた環境への取り組みをさらに発展させるため令和3（2021）年9月に、自治体初の「ワンヘルス推進宣言」を表明しました。

推進にあたり、ワンヘルスの理念を広め、基盤整備等を進めるための指針となる「みやま市ワンヘルス推進行動計画」を策定し、「健康と命を守る」「動物との共生」「食育・地産地消」「環境保護」「みやま市の魅力向上」「ワンヘルス実践の基盤づくり」「ワンヘルスセンターの活用」の7つの基本方針に基づき施策を実践しています。

認知度向上に向けた市民講座「ワンヘルス楽校」や「ワンヘルスフェスティバル」などの普及啓発事業、全国に先駆けて取り組むワンヘルス教育を積極的に展開しています。

また本市には現在、福岡県により保健環境研究所と動物保健衛生所の機能を併せ持つ「ワンヘルスセンター」の建設が、令和9（2027）年度の供用開始に向け、進められています。

行政、市民、企業が協働し、ワンヘルスの理念である人と動物の健康、環境の健全性の3つの健康が守られた、持続可能な「ワンヘルスのまち みやま」を目指しています。



▶ワンヘルスセンター完成予想

これまでの取り組みに ワンヘルスの視点をプラス！



自分の生き方を見出す「ワンヘルス教育」



▲ 研究発表会

小学校低学年では、「身近な動物や人々の良さに気づく」、小学校中学年では「自分や他の人々、周りの環境について知る」、小学校高学年～中学校では、「他者の生き方を知り、自分が地域や社会のために何ができるかを考え行動する」ことを目標としています。

ワンヘルスを新たな取り組みとしてではなく新たな視点として捉え、私たちの生活や既存の施策を見つめ直す取り組みを行っています。

ワンヘルス教育を教育課程の中に位置づけ、既存の教育と連携することによって、より深いある豊かな教育活動に繋がっています。

特長は、「見て、聞いて、触れて、感じる」ことができる体験活動の充実とキャリア教育との連携です。

小中学生のそれぞれの発達段階に応じて目指すべき姿を設定し、体験活動を通じて、子ども自身が未来の自分の生き方を見出すことができるようにしています。



▲ 特産品を使って味噌汁作り



▲ 市のまちづくりについて提言

森の小径



ワンヘルスを学び体験できる施設として、清水山荘と森の小径が「福岡県ワンヘルス啓発施設」に認定されました。自然の中を歩きながら心身のリフレッシュができ、豊かな自然を感じることができます。

市民講座「ワンヘルス楽校」

市民講座「ワンヘルス楽校」では、「ワンヘルスってなに?」、「わかりづらい」、「何をやるの?」など、日頃感じている疑問を「なるほど!」と実感できる話や体験プログラムを実施しています。



▲ アロマスプレー作り



▲ キムチ作り



▲ 清水山ワンヘルスウォーキング

ワンヘルスフェスティバル

講演会や体験コーナーを通じて、人と動物と自然のつながりを様々な角度から学び、ワンヘルスを身近に体感できる「ワンヘルスフェスティバル」を毎年開催しています。

